

北海道のバスケットボールの2009年締めくくりとして行われた総合選手権大会の様子を、元北海道バスケットボール協会競技委員長を務められていた村上 裕氏に当時の大会を振り返りつつ今回の大会について語っていただきました。

北海道バスケットボール総合選手権大会 兼 全日本総合選手権北海道予選会を見て考えること

札幌市立藤野中学校
村上 裕

当時の大会は、男子40チーム、女子12チーム位でした。おそらく各地区協会代表も出場していたでしょう。男子のベスト4は、宮田自動車、札幌大学、北籠クラブ、クワザワで、女子は、岩倉組、静修高校、道女子短大、アカシヤクラブでした。優秀選手賞の谷本善和氏は、ロートルズで、また、敢闘賞の片桐省三氏はシニアでまだ現役プレイヤーとして大活躍しています。まさに生涯スポーツそのものです。

当時、バスケットボールのメッカと言えば、中島スポーツセンターでした。入場料500円を払っても、最終日の会場は観客で満員になったものでした。また、マスコミ(新聞)にも大会の記事が写真入りでよく載りました。

昭和50年代に入り、出場チームが実業団、クラブ、教員、大学、高校の各連盟のBest4による大会となりました。男子の優勝チームが、宮田、札大、アストラ、クワザワ、日体大OB、江別クラブと毎年しのぎを削っており、観ごたえがありました。そして、ベスト4止まりであった東海大四高が61年、ついにトップの座につきました。

その後、優勝チームが全国大会に出場しないという事態が起こりだし、全道選手権と全日本道予選とが別開催の期間が6年続きました。平成になり、会場が江別市民体育館へと移りました。入場無料にも関わらず、観客が減少したように感じました。登録チーム数、人数ともに大幅に増加しているのになぜなのだろうか。

昭和49年のチーム一覧では、一般・実業団・大学・高校のみの種別が協会に属していて、加盟数は507チームでした。それが、35年後の平成20年には、日本リーグ・1、一般・27、実業団・5、クラブ・111、教員・7、大学・57、高専・7、高校・433、それに中学、ミニ、家庭婦人、定通制、専門学校を加えて計1,840チームと、三倍以上になっています。また、登録者数は1,840人から32,710人と激増しています。その間、ミニ、ジュニア、クラブ、教員、家庭婦人、専門学校と多くの先達の努力により、着実に連盟の組織を固めてきました。現在は、立派な事務局が設置され、9委員会、総勢120名を超えるスタッフが名前を連ねています。

私は、学生時代に学連副委員長を務めた経験があります。何とかして、学生のレベルを上げようとして、当時学連の面倒を見てくれていた村木茂明クラブ連盟会長の指導を仰ぎ、総合選手権の直前に、学生・一般対抗大会を立ち上げました。第三回大会の新人賞は、苫小牧協会副会長の佐藤淳(札大)、彼は江別高校の後輩で、卒業後はトヨタ自動車で活躍しました。

昭和 57 年に道協会に入れて頂きました。その後、全国中学、全国高校、全国教員、国体と立て続けに開催された全国大会も開催しています。昔なら考えられないことでした。

今年、北翔大学が優勝を決めた後、亀田監督とお会いしました。先生は私が大学一年生の時の札教大の監督でした。その年の総合選手権で優勝した宮田自動車が出場を辞退し、3位の札教大が協会推薦で出場できたのです。代々木第二体育館で中国代表の松江工業高校に一回戦で敗れました。青函連絡船で、津軽海峡を渡ったことや東京で雪に足元をすくわれたことなどを懐かしく語り合いました。そんな昔話をしている時に、札大の倉島監督が「バスケットをやっている者にとって、正月がなくなることは、最高の荣誉だ」と激励を込めておっしゃいました。帯広南商業高校の健闘には、拍手を送りたいと思います。クラブ連盟の一位と二位に完勝しての堂々たる準優勝です。

一方、男子の宮田自動車は、実業団選手権で苦杯をなめた札幌市役所に一度もリードを許すことなく、安定した試合運びで四年ぶりの優勝を飾りました。応援にかけつけたOB達も喜びひとしおでした。勝つことを義務付けられ、目の肥えたOB・観客が、応援席からベンチや選手や審判に対してアドバイスやクレームの嵐を受けるプレッシャーの中で、選手の使い方、モチベーションの高め方などヘッドコーチの苦労も多かったことと思います。

宮田自動車の素晴らしいところは、後輩の育成に力を入れてくれることです。この10年間、中学校のチームを集めて「宮田杯」を開催してくれています。今年の全道大会に出場した札幌市代表の4校は、すべて宮田杯の出場校です。試合後に宮田の選手達から直接アドバイスを頂き、毎日練習にいかし、そして結果を残しています。

道ジュニア連盟も、来年1月の新人戦南北決戦大会に合わせて、強化・審判の合同研修会を予定しています。北海道のレベルを向上させるために、ミニ、中学、高校がお互いに刺激を合せて、北海道を代表して全国大会へ出場するチームに対して、惜しみない物心両面の援助を道協会にもお願いいたします。

最後に山の手高校が「道スポーツ賞」を受賞したニュースが報じられました。ウィンターカップと日程的に苦しいのは理解していますが、高校チャンピオンが総合選手権に再び登場してくれることを期待して、終わりにいたします。

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会